

12/06/25 08:02

Po001 時事通信

【オピニオン】★民の感覚、官の感覚 津市長・前葉泰幸

慎重に慎重を期す役所の流儀にも、それ故に陥穽（かんせい）がある。

◇過剰防衛

公務員は常に納税者である住民の満足を願って施策を考える。常に住民の反応を気に掛け、不満の声が出ないように完璧に備えようとするあまり、必要以上に経費と時間を費やしてしまうことがある。

伊勢湾沿いの海岸線が南北20キロ続く津市では、津波からの一時避難場所の在り方が市長選挙の争点になった。津波避難ビルの指定を公約に掲げ当選した私のもとに、防災担当職員から思わぬ案が届けられた。「可能性のある民間ビルは300棟ある。市民が安全に避難できるかどうかを一棟一棟調査したい」



私は、「その前に、まずは手を挙げてくださる企業を募集すべきだ」と指示した。さっそく9社からの応募があり就任後3カ月経たずに協定書に調印する運びとなった。

◇前例踏襲

前例を踏襲することで批判を回避する傾向は何も役人に限った話ではない。それでも「役人が大過なく過ごすための前例踏襲」だと批判されることが多いのは、それほど役所の仕事が市民の生活に直結しているからであろう。

津市の「ニューファクトリーひさい」は、多くの企業から引き合いをいただく優良工業団地だ。ガラス製造の世界的企業であるフランスのサンゴバングループのマグ・イゾベール社が、進出検討中と知り、私は就任早々にトップセールスを提案した。一方、職員は、「企業誘致でトップの出番は最後である」と言う。

しかし例外はある。私は「自分のフランス企業勤務の経験に鑑み、外資はトップを見て判断すると思う」と説明し、即座に鈴木英敬三重県知事と共に同社の社長と会った。立地協定への調印後、リエナール社長は、「知事や市長のトップセールスで信頼関係ができた。」と記者に語った。

◇現状維持

現状を変える際には役所特有の煩雑で膨大な量の事務手続きが要求されるうえに各方面への細かい配慮も必要となる。消極的になるのも無理はない。

一般に第三セクターの経営改革が遅れがちなのは、ギリギリの状態に至るまで現状を維持で何とかならないかと考えるからであろう。株式会社「津センターパレス」も同様で、中心市街地の

旧津市役所跡に大規模商業ビルとして出発した第三セクタービルのテナント撤退というお決まりのパターンへの対策は後手に回り、市議会にはいら立ちと執行部批判が渦巻いていた。

これまで職員は問題解決のために多くの汗を流してきている。手詰まりになった時こそ関係者の知恵と技能、アイデアを結集したうえで、私自身の行政と民間で培った経験とノウハウを総動員し、全力で困難に向き合っていくべく一歩踏み出すべきだと私は決断した。

そこで、耐震性に問題がある津市中央公民館と津市社会福祉センターをこのビルに入居させ、該当部分の資産を津市が合併特例債を活用して第三セクターから取得するという「現状打破」の案を就任4カ月でまとめた。

津市議会の全員協議会で3回説明した後、今年度当初予算に関係経費の計上が認められ、公共施設の整備と第三セクターの経営改革の一石二鳥を狙った案が日の目を見ることとなった。

今回の事例が今後どう発展するのかはまだ分からない。しかし、少なくともこのプランの実施でこう着していた現状を打破するのみならず、中心商業地区の活性化につながるという新展開も見えてきたのは紛れもない事実である。(了)

(2012年6月25日)

前葉 泰幸(まえば・やすゆき)氏のプロフィール

1962年三重県津市生まれ。東京大学法学部卒業後、1985年自治省(現総務省)入り。自治省税務局固定資産税課課長補佐、宮城県総務部長、デクシア銀行東京支店副支店長、地方公共団体金融機構審査室長などを経て、2011年4月から津市長。

Copyright©JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.